

【地域の概要】

○当町の総面積は41.16km²であり、土地利用状況は総面積のうち69.5%を山林が占め農地はわずか6.4%でありその形態は飛騨川の両岸に沿って細長く拓けた農地、住宅、工場、学校等が混在している平地である。その他、鹿塩、神坂の山間部等は比較的ゆるやかな傾斜を最大限に利用した農地である。

①取組開始前の状況や課題

- 担い手への農地の集積率は、10.88%（令和2年度）となっている。
- 遊休農地率は、0.50%（令和2年度）となっている。
- 長年放置され、保全すること自体が難しくなっている農地が増えている。

②取組内容

利用状況調査（令和3年10月）

○農業委員会による農地パトロールを実施し、遊休農地の把握、通知や指導等を行った。

利用意向調査を契機にした遊休農地解消と担い手への情報提供

○ハウス内で作付を行っていた農地で、高齢化等により耕作・管理ができなくなり長年耕作放棄地となっていた。

○古くなったハウスの残骸があり、景観を損ねるとともに、周辺農家への営農にも影響が出ていた。

○地区の女性農業委員による所有者への意向調査の結果、貸付希望があり、担い手へ所有者の意向を提供

○所有者がハウス残骸を処分することで、処分後は担い手が耕作することで合意し、集積を図ることができた。

③今後の展開と方向性

農地中間管理事業の活用に向けた遊休農地対策

○現在行っている農地パトロールを継続して行い、遊休農地の発生防止を図る。また、特に長年管理されていない遊休農地が多く存在する農地については、土地所有者の意向を調査し、利用権設定あるいは農地中間管理事業を活用する等、解消に向けた活動を行う。

日常的な農地見守りを強化

○決められた回数や時期のみ、巡回するのではなく、常時、地域の状況把握ができるように努めていく必要がある。また地元農家とも協力・話し合いをしながら遊休農地の解消や集積、集約化に努める。